

ふれあい つながり かわら版

令和五年度から六年度へのスムーズな接続を

〜第3回小中一貫教育推進担当者会〜

令和六年二月九日(金)に総合教育センターと各中学校ブロックをオンラインでつないで、担当者会を開催しました。

最初に四郷学院尾野校長先生から、京都市立凌風小中学校の校長先生と交流された経験から「まずは小中の先生方の足並みを揃えることが大切。9年間がつながる取組や児童生徒の交流も大事ですが、教員同士のつながりを大切にしていきたい」と開会挨拶がありました。

続いて、担当者を代表して真砂幹事長から、昨年9月に四郷学院で開催された実践研究発表会の成果として「ブランドカリキュラムの単元配列の見直し」や「教職員一人一人の声を大切にする Google フォームを使った研究授業の振り返り」の実践報告がなされました。そして、来年度開催予定の「中播磨小学校国語科教育研究大会」に向けて「書く力をつける国語科の授業づくり」に引き続き取り組んでいることが紹介されました。

2小2中で進める小中一貫教育

飾磨中部中学校ブロックの実践

続けて、2つのブロックから実践取組発表がありました。飾磨中部中学校ブロックは、飾磨小と飾磨中部中の1小1中のブロックですが、飾磨小から飾磨東中へ進学する児童が一部いるため、飾磨中部中、飾磨東中、飾磨小、高浜小の4校で足並みを揃えた小中一貫教育を進めています。

実践発表では、2小2ブロックでの連携の難しさがある中、「5つの約束」の徹底や道徳・人権学習の研修、部活動見学を実施していること。また、校区内に8つの校園所があ

姫路市教育委員会
学校指導課
小中一貫教育・ICT教育推進係
(079)221-2120



るため、保幼小の連携にも力を入れ、スムーズな接続ができるようにも心がけていることが紹介されました。

目今の児童生徒の実態に合わせた小中一貫教育

広畑中学校ブロックの実践

広畑中学校ブロックは、2小1中のブロックですが、2つの小学校に規模の違いがあったり、中学校との距離が2つの小学校で大きく異なっていたりと、小中一貫教育を進めるにあたって課題があります。それらの課題解決のため、夏季休業期間と冬季休業期間に小中合同研修会を開催し、

冬季小中一貫教育合同研修会

◎不登校について

R4年度
『不登校生の保護者・本人に対して、どのように接していけばいいのか迷っている教師の悩み解決の手立て』
講師：羽下 大信 氏



[兵庫県臨床心理士会 会長 住吉心理オフィス主宰]

目今の児童生徒の実態に合わせた実践を進めています。各校で働き方改革が進められ、実施が難しくなった取組もある反面、担当者同士が連携を取りながら、工夫して実践を進めていることが紹介されました。



谷外小岸野校長先生からは、両ブロックについて「ブランドカリキュラムにもとづいた実践であること」や「目の前の児童生徒の課題に合わせた実践であること」との講評がなされました。会の最後には、安室小角倉校長先生から、ブランドカリキュラムの見直し方について、「姫路市教職員・児童生徒意識調査」にブロック独自の項目を設けることで客観的な評価の指標となるように数値化している取組が紹介されました。

令和五年度の小中一貫教育を振り返って

担当者の先生方から提出された「ブランドカリキュラム」には、「探究的な学び」に関する文言が24のブロックで見られ、市内の多くのブロックが総合的な学習の時間が重要であると認識していることが伺えます。

また、同じく担当者の先生方から提出された、本年度の「小中一貫教育取組チェックシート」を大きなまとまりごとにまとめましたので、結果の概要をお知らせします。

①ブランドカリキュラムに関わる項目

全35ブロックから「ブランドカリキュラムの見直し、修正・検討」に「取り組んだ」と回答があるなど、担当者間ではブランドカリキュラムを意識した取組ができています。

②小中教職員の協働に関わる項目

合同授業研究・研修ともに、実施したブロック数が昨年度、一昨年度と比較して大幅に増加しています。来年度は、報酬費が教育研修課のスペシャリスト派遣事業へ統合・移管されるため、各校の校内研修担当者との連携が必要になります。

③児童生徒間交流に関わる項目

コロナ禍の影響を受け、取りやめていた小中合同行事が、対面やオンラインなど方法を工夫しながら実施されるようになりました。来年度は、各ブロックに配当されていた使用料・賃借料が見直しとなったため、これまでと交流の形を変えて行事を実施したり、交流自体の見直しが必要になります。

④保護者・地域との協働に関わる項目

コロナ禍の影響を受け控えていた保護者・地域住民との交流が、コロナ禍前のように盛んになってきています。

いずれの項目も、昨年度、一昨年度と比較して大きく上昇しています。来年度は、第2期姫路市教育振興基本計画の最終年度となります。そこでは、「義務教育9年間における『小中一貫教育』を中心に、各校種間の積極的な連携を推進し、個々の子供について適時性・連続性を考慮した教育の充実を図ること」が示されています。来年度も引き続き、小中一貫の取組を進めてまいります。